

# 戦後民主主義の行方

法政大学  
山口二郎

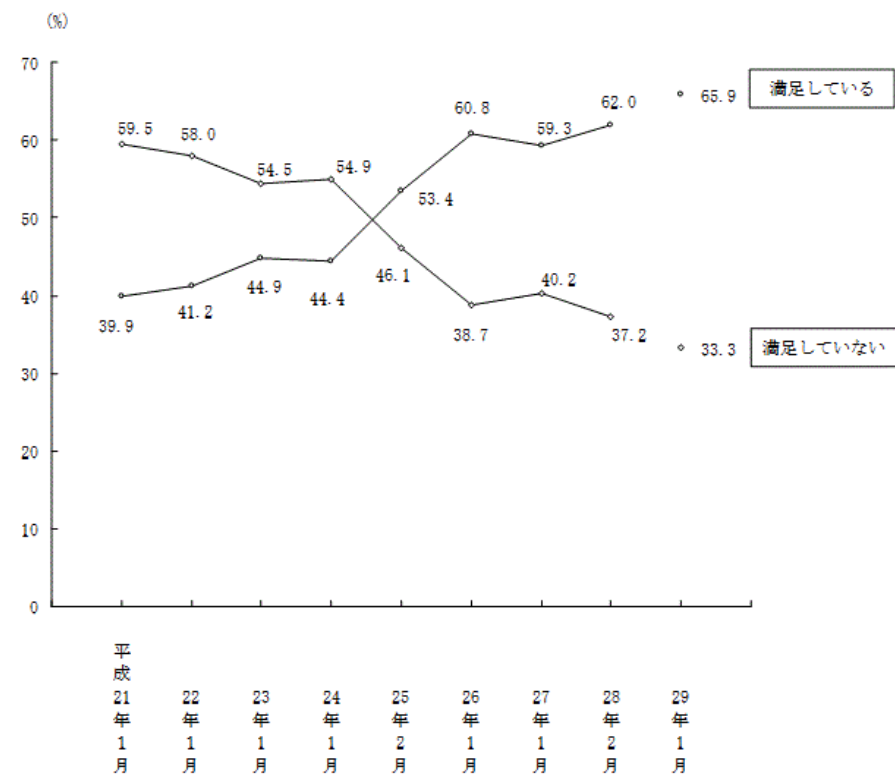
# 1 2010年代という失われた時代

## ① 2010年代という自民党の相対的安定期

- 2010年代の自民党の強さを支えた条件
- 民主党政権への責任転嫁
- 国民の正常性バイアス： たぶん大丈夫だろうという思い込み
- 低い投票率と自公協力による組織票の確保

# 社会への満足

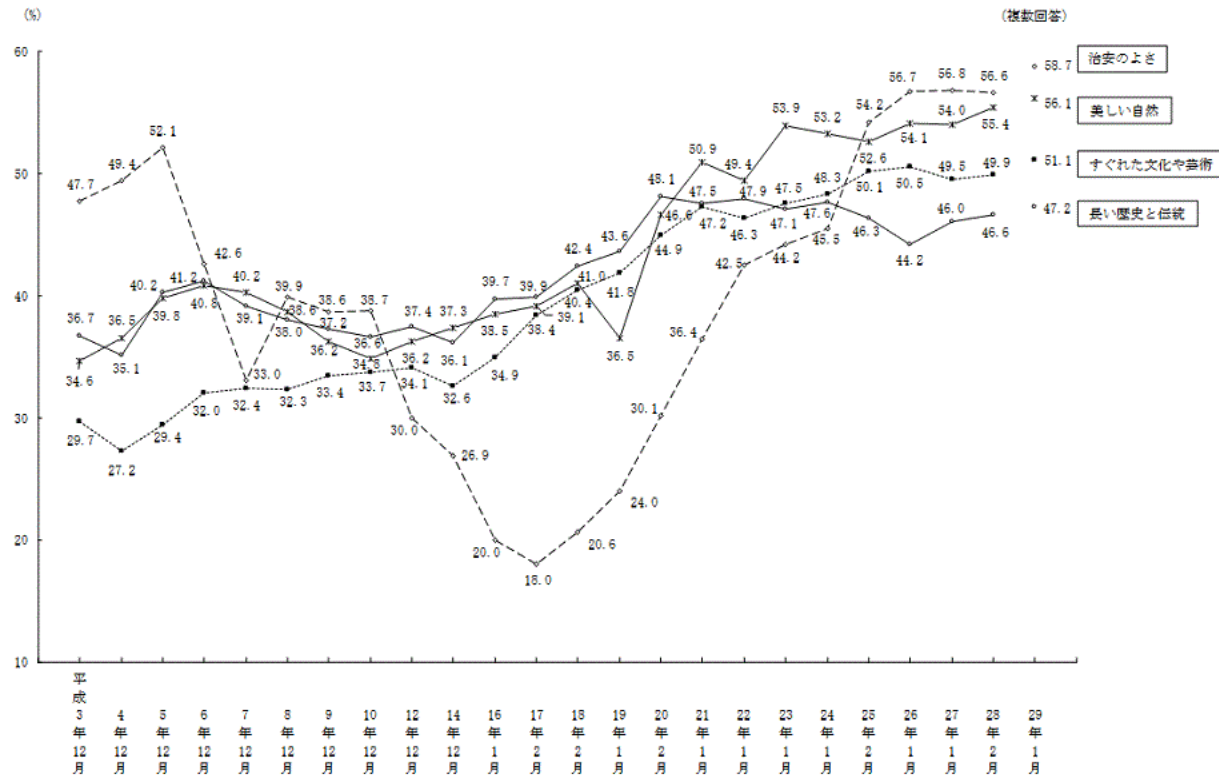
図14-2 社会全体の満足度（時系列）



(注) 平成28年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から18歳以上の者を対象として実施。

# 日本の美点

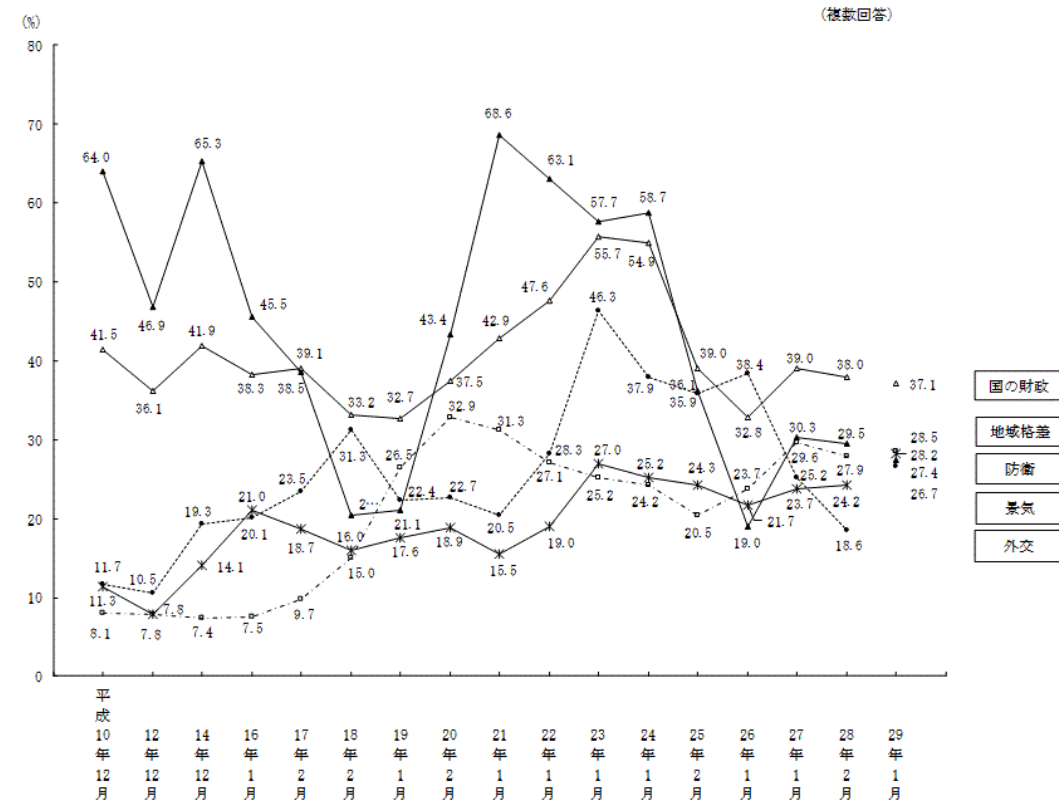
図11-2 日本の誇り（上位4項目，時系列）



(注) 平成28年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から18歳以上の者を対象として実施。

# 危機感の低下

図18-1 悪い方向に向かっている分野（上位5項目、時系列）

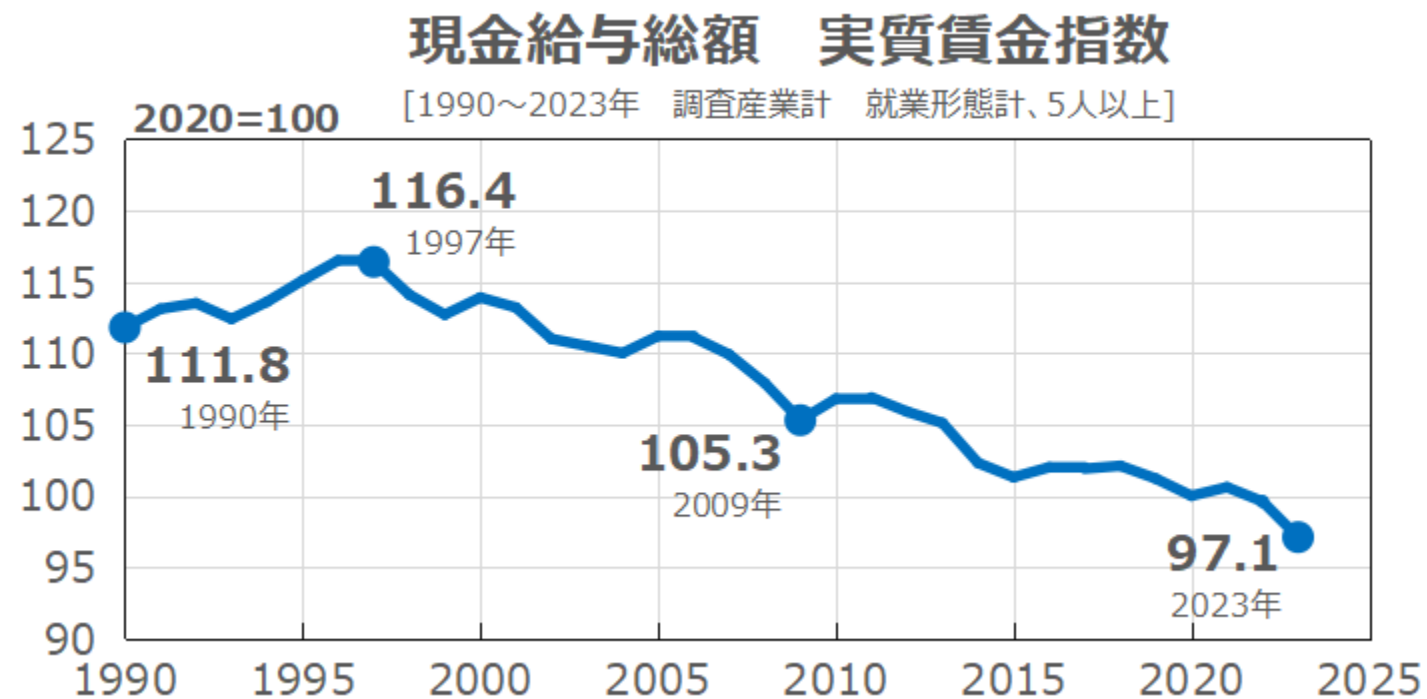


(注) 平成28年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から18歳以上の者を対象として実施。

## ② 2020年代の変化

- アベノミクスの帰結：異次元金融緩和と財政ファイナンス
- 円安がもたらす富の移動
- 株主資本主義と資源配分のゆがみ：格差貧困の深刻化と賃金の停滞
- 人口減少と外国人労働力への依存
- 正常性バイアスの終わり

# 実質賃金の低下



# 格差の拡大

所得上位10%の人、下位50%の人の所得の総所得に占めるシェア  
(2023年)

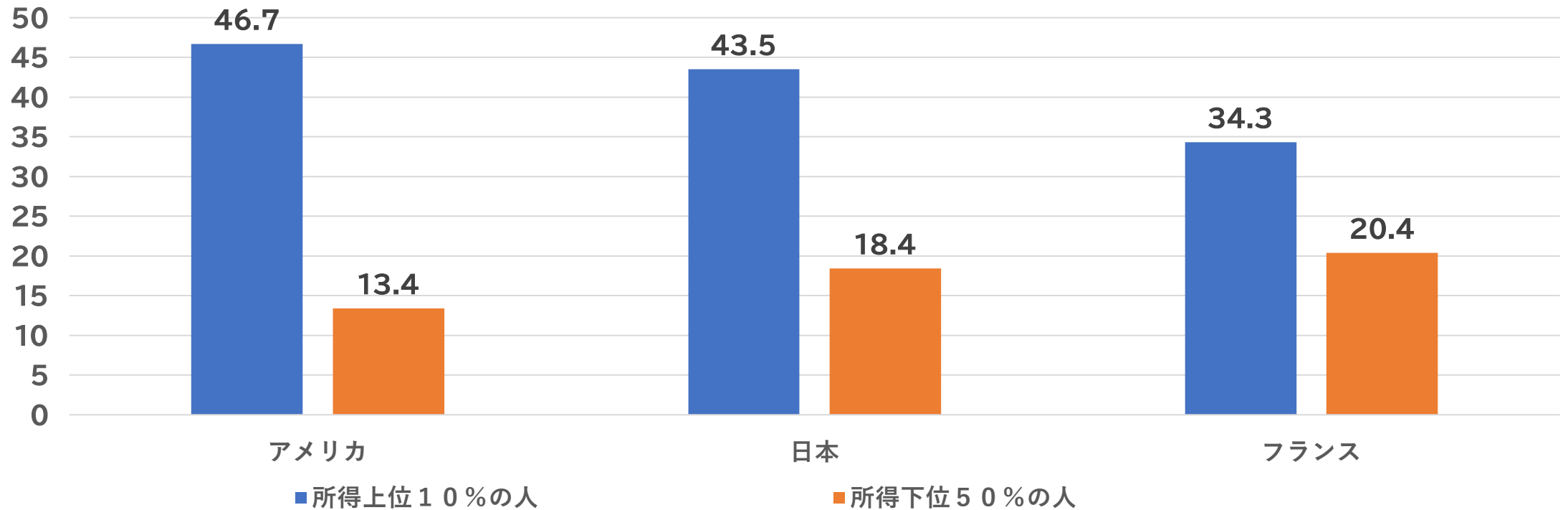
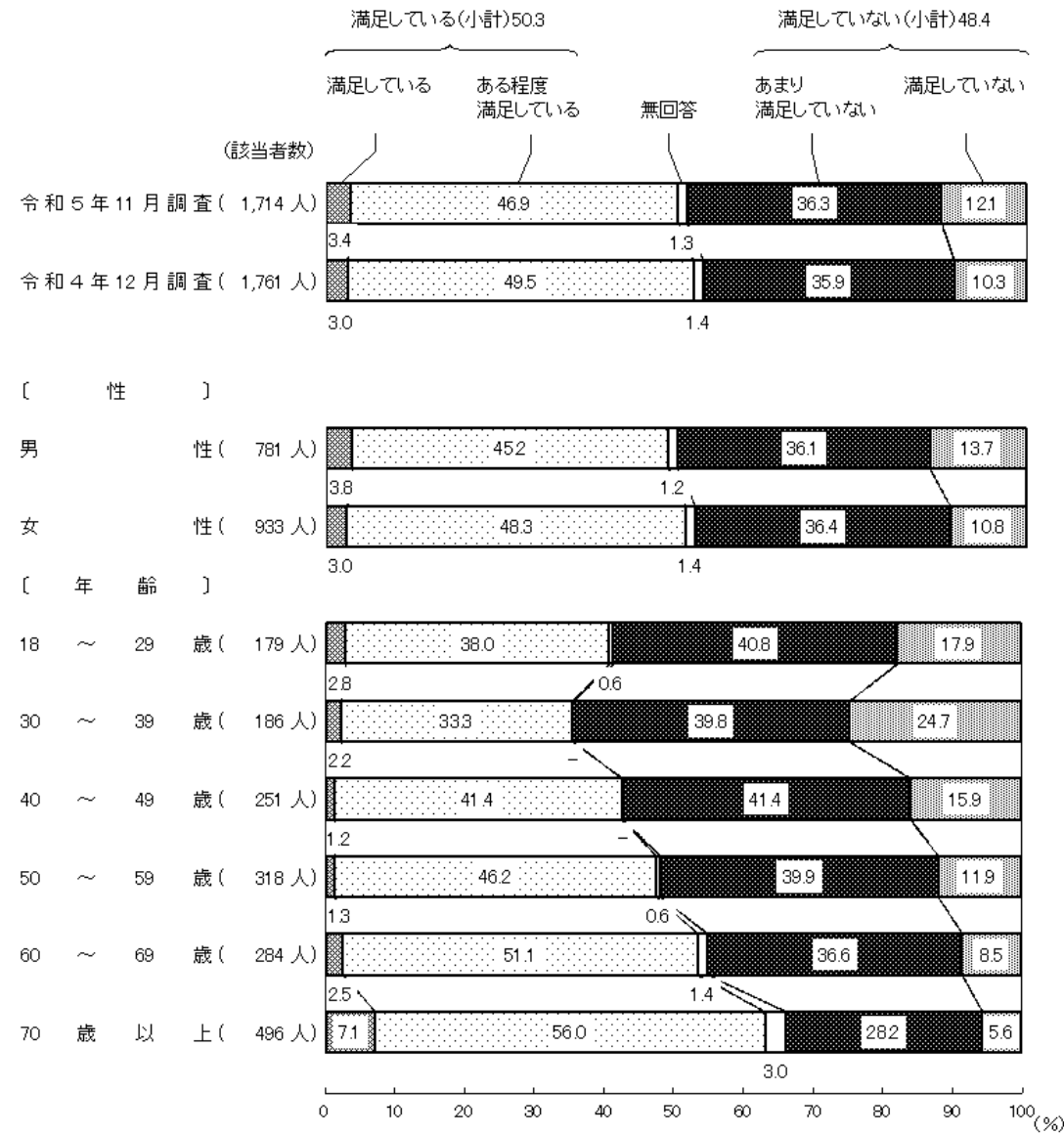


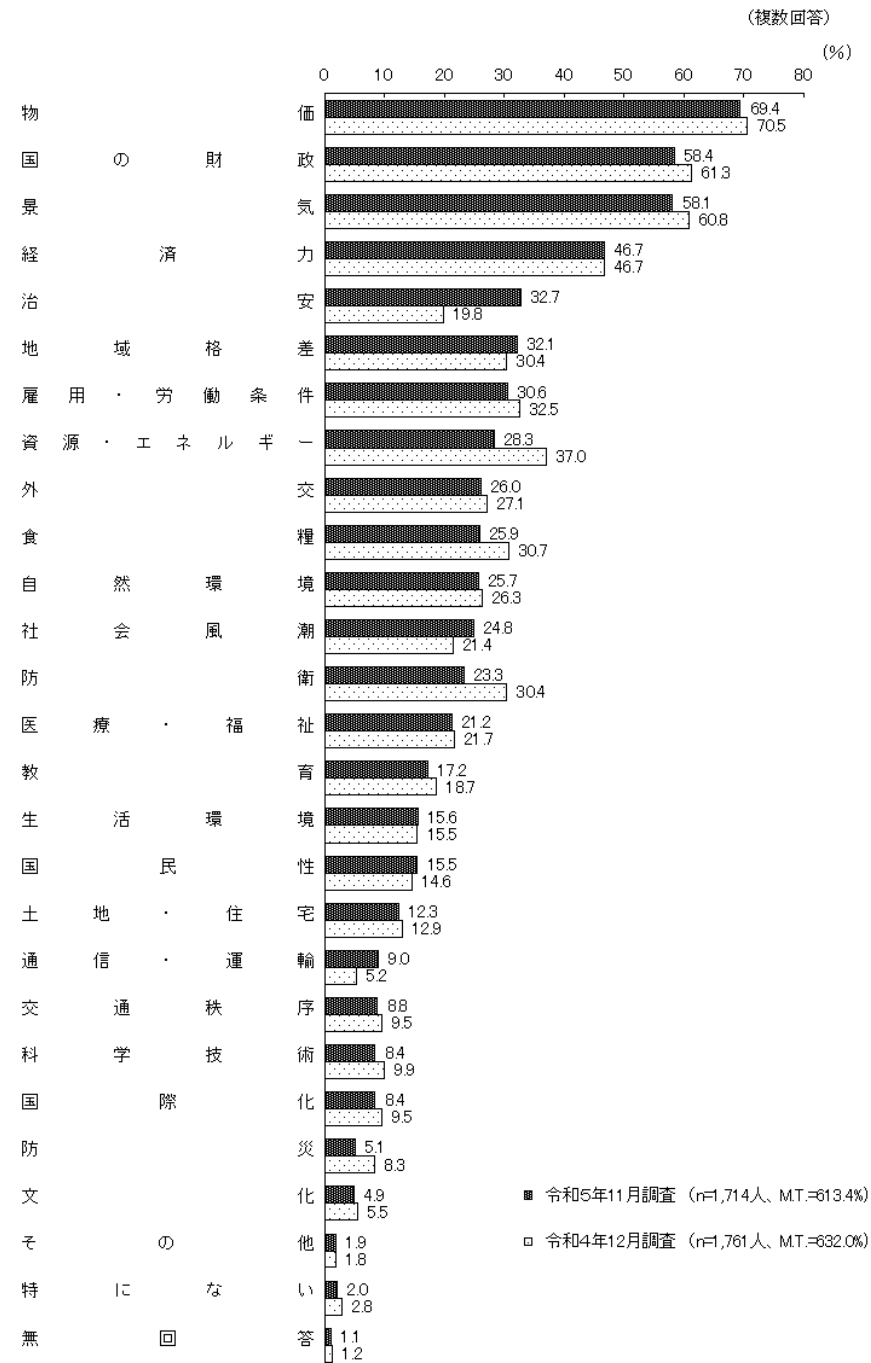


図14 社会全体の満足度



2023年11月調査

図18 悪い方向に向かっている分野



■ 令和5年11月調査 (n=1,714人、MT=613.4%)

□ 令和4年12月調査 (n=1,761人、MT=632.0%)

## 2 自民党の弱体化と高市政権

### ① 2025参議院選挙に現れた民意

- 投票率の上昇 58.5% (3年前より6ポイント、6年前より10ポイント上昇) → 誰が投票に行ったか？

- 自民党支持の低下、参政党、国民民主党の躍進

	2022参院選	24衆院選	25参院選	(単位：万票)
自民	1825	1458	1280	
国民	315	617	762	
参政	176	187	742	

## ② 自民党における振り子の動き

- 穏健化の方向 岸田、石破の登場、しかし支持を回復できず
- 高市、保守的女性政治家という新しいカード
- 清新さと保守化の両方を狙う
- 右派の支持を回復、無党派層を取り込む／公明党の離反
- 政権支持と自民党支持の乖離

# 毎日新聞世論調査 2025.11.23

- 年代別の内閣支持率をみると、18～29歳74%（前回76%）▽30代76%（同70%）▽40代71%（同69%）だった。一方で、50代の支持率は63%（同68%）▽60代62%（同65%）▽70歳以上56%（同53%）と若い年代の方が支持は高い。
- 支持政党別では、自民党支持層の89%、日本維新の会支持層の82%が支持しているほか、国民民主党と参政党支持層の8割程度の支持を集めている。与党だけでなく保守色の強い野党支持層からも評価される傾向が続く。「支持政党はない」とした無党派層も56%が支持すると答えた。

### ③ 戦後民主主義の危機

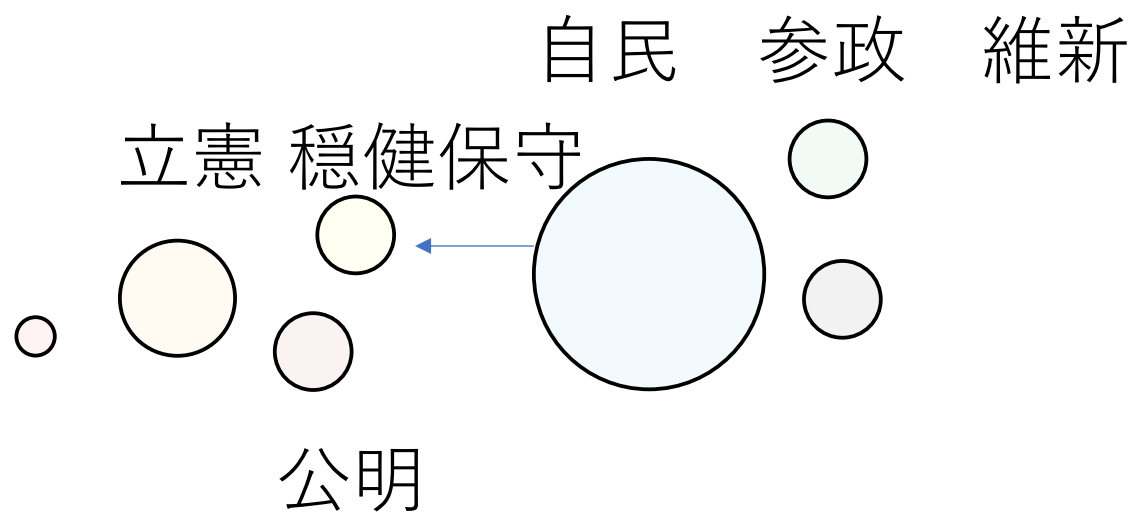
- 台湾有事発言の問題点

高市は集団的自衛権行使の具体的な意味を理解しているのか  
アメリカの台湾防衛参戦を自明の前提としている愚

- ナショナリズムの煽動と「一億一心」の気配

質問した野党が悪いという暴論  
メディアにおける同調圧力

## ④ 新たな対抗図式



# 右派ポピュリズムの時代の厄介さ

- 外交安全保障、経済財政運営における困難
- 現実主義的アプローチとは何か
- 常識、穏健派に対する不満： 歯切れが悪い 暗い
- 「威勢の良さ」、「大胆さ」をどう乗り越えるか